

平成 28 年度以降の運営方針について

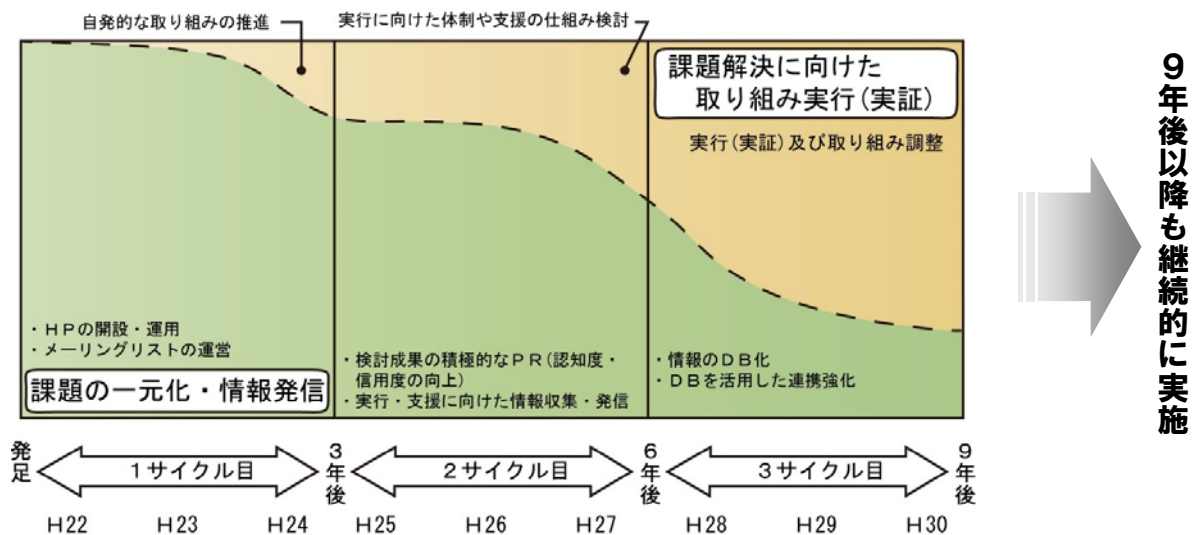
1. 矢作川流域圏懇談会の運営方針について

1.1 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

1.2 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3 年に 1 サイクルで総括を行いながら運営
- 今年度からは、3 サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へシフト



2. 現状

- (1) 課題解決に向けた山・川・海部会の活動が活発化
これまで話し合いやフィールドワークを行ってきた山・川・海の各部会とも課題解決に向けた具体的な活動が動き出し、各部会でその成果が出始めている。
- (2) 流域連携を話し合う場を新たに立ち上げ
流域連携に関する取組みについて懇談会メンバーの意見を聞きつつ、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3テーマに絞り、検討を進めていくこととした。
- (3) 河川整備計画のフォローアップを開始
矢作川流域圏懇談会のもう1つの目的である「河川整備に関わる情報共有・意見交換」を全体会議で行うこととした。

3. 懇談会の目標

前期3カ年の運営方針を基本的に踏襲したうえで、以下の取組みを補強していくことにより、流域圏全体の発展につなげていくこととしたい。

3.1 各部会の活動成果の見える化

平成28年度からは、課題解決に向けた実行（実証）を行っていく3サイクル目に入った。これを契機に、山・川・海のこれまでの活動成果を見える化することで、各部会が各々何を目指していけばいいのか明らかにしていく。その結果、産学民官が果たすべき役割も見えてくることから、一層の活動進捗・合意形成につながることが期待できる。

3.2 山・川・海メンバーの相互理解の促進

本格的に流域連携の取組みを推進していくことを目標に、ますます、お互いの相互理解を促進していくことが必要である。

そのため、①山村再生担い手づくり事例集(山)と、活動団体ヒアリング(川)といった、異なる部会での同様の活動は、部会連携で実施すること。②各WG活動の他部会への参加を積極的に呼びかけることを実施していく。

3.3 流域連携テーマ検討の具体化

H26に方向性を打ち出した流域連携テーマについては、今後3つの部会共同で、何かをつくり出す仕組みを検討し、具体化していくことが必要である。全国に胸を張れる矢作川流域圏での取組みを共有し、全国にPRしていく形が望まれる。

3.4 河川整備計画のフォローアップ

フォローアップの取組みを通じて流域圏一体化（各組織のネットワーク化）につなげることを目指す。具体的には、懇談会との関わり、整備効果の見えるか、情報共有等を積極的に取り組んでいく。

4. 年間の検討体制・スケジュール

検討は、「企画・調整」「検討・実施」「とりまとめ・報告」の3段階で行っていくものとする。

